

平成28年度の普及活動トピックス～重点活動より

～ 高品質・良食味米生産の取組 ～

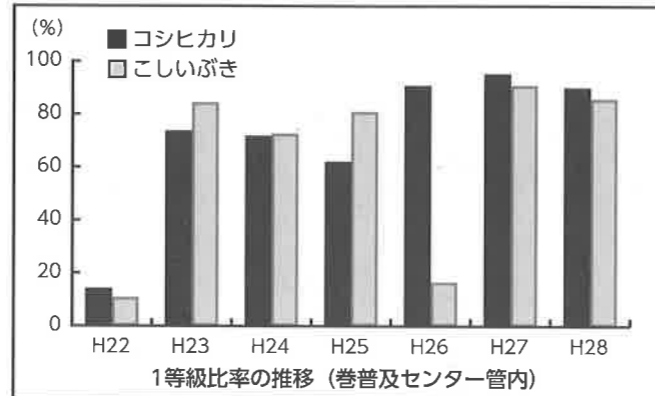
- コシヒカリやこしいぶきの生育調査及び高品質生産に向けた実証活動に取り組みました。
- 稲作技術情報、稲作生育速報、JA営農情報携帯サービスの活用等により稲作情報を提供しました。
- 適期中干し作業や適正な穂肥診断を推進するため、大型ポスターをJA営農センターに掲示しました。また、広報車を活用し適期中干しの実施を呼びかけました。
- 各JA営農センターと連携し、中干しや穂肥の現地指導を行いました。
- 土づくり研修会や、若い農業者を対象とした稲作セミナー、関係機関との現地検討会を開催しました。

【取組実績】

- 多くの生産者が適期作業を実践したことに加え、気象災害がなかったことでコシヒカリとこしいぶきの品質は、平年以上の1等級比率が確保されました。



関係機関による現地検討会 (H28.8.9)



注：各年度とも当時の普及センター管内における1等米比率

～ 園芸生産の拡大の取組 ～

- JAの園芸拡大計画と連動し、水稻・大豆作業と競合が少なく、契約により価格が安定し、市場ニーズも高い「加工用たまねぎ」、「加工用キャベツ」「契約栽培ミニトマト」等を中心に、稲作経営体等への園芸導入を推進しました。
- 水田の高度利用や水稻育苗ハウスの後利用等による園芸導入の優良事例研修を6月、7月、10月の年3回、「いちじく」や「ひまわり」等の事例を加えて行いました。
- 先進地視察研修会として、糸魚川市・上越市方面の水稻育苗ハウスを活用した「養液土耕コンテナ栽培」と、大規模稲作法人の「えだまめ」及び「ブロッコリー」の園芸導入事例を研修しました。
- 「加工用たまねぎ」、「加工用キャベツ」の生産安定や「養液土耕栽培ミニトマト」の後作利用等の実証ほを設置しました。



園芸導入研修会(H28.7.12)

重点品目の栽培面積

重点品目	栽培面積 (管内)	
	H27	H28
加工用たまねぎ	370 a	522 a
加工用キャベツ	100 a	260 a
契約栽培ミニトマト	20 a	34 a

【取組実績】

- JAと連携して重点的に取り組んだ「加工用たまねぎ」、「加工用キャベツ」、「契約栽培ミニトマト」で生産拡大が図られました。

～ 新之助の良食味生産の取組 ～

- 平成28年度、新潟県では水稻新品種「新之助」の先行生産を行いました。全県で約100ha、管内では5研究会が約7haを作付けました。
- 生育期間中に新之助生育情報を発信するとともに、中干しと穂肥等栽培管理研修会、新之助GAPの研修会を開催し、研究会の活動を支援しました。

【取組実績】

- 管内で生産された「新之助」は、食味・品質基準（玄米タンパク質含有率6.3%以下、整粒歩合70%以上、水分含有率14.0%以上15.0%以下）を満たし、また、目標以上の収量を上げました。



新之助穂肥研修会 (H28.7.19)

～ 担い手農家の経営基盤の強化への取組 ～



巻地域アグリビジネス塾 (H28.11.30)

- 組織経営体の育成、農地の集積・集約化、6次産業化等の取組を支援し、担い手農家の経営基盤の強化を推進しました。
- 経営体の所得向上や経営体質の強化を図るため、巻地域アグリビジネス塾を開講し、経営の多角化・複合化や販売力の強化、人材育成等による経営管理能力の向上を支援しました。

【取組実績】

- 農地や雇用の受け皿となる組織法人の育成に向け、任意組織の法人化や新規法人の設立に向けた話し合いや事業計画の策定を進めました。

- 農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化に向けて、研修会の開催や、重点地区における話し合いを通じた地域の合意形成を進めました。

～ 新規就農者の確保・育成への取組 ～

- 関係機関と連携して就農相談等を行うとともに、研修受入・就農支援の体制を整備し、担い手の確保・育成と定着促進に向けて取り組みました。
- 就農相談や就農計画策定など就農希望者の営農開始を支援しました。また、新規就農者には、就農計画等の達成に向け、営農課題の把握と今後の対応策を検討しました。
- 新規就農者の定着に向け、栽培技術の習得や経営管理力の向上を支援しました。また、研修会等への参加を促し、地域内外の就農者が交流を深めました。

【取組実績】

新規就農者・就業者数	24人
ニュー農業塾（稲作・野菜）による栽培技術習得支援	8人
農業ビジネス塾による営農プラン策定支援	2人



新規就農者交流会